

かわらだ ひろこ

川原田弘子 ニュース



iPS細胞のコスプレで、神戸マラソンを応援しました！！



～医療を核に雇用と福祉が生まれるまち～



2014年12月に行われた、第2回定例会において、一般質問を行いました。

震災後の神戸経済を救うために始められた医療産業都市のプロジェクトは、スタートから16年を経過し、医薬品などの関連のたくさんの企業や機関が集積してきました。今後、求められるのは、「プロジェクトを進めてきて良かった！」と、市民に共感してもらえることであると思います。

そのためには、より一層の雇用が拡大する取り組みと、もうひとつは、医療福祉の面で、「神戸に住んでいると安心できる」と実感してもらうことと考えます。

質問は、そうした観点を中心に行った下記の7点です。質疑の内容と、質問の背景などをニュースにしてみました！！

<質問項目>

1. 医療産業都市の新しいステージについて
2. iPS細胞バンクについて
3. 専門病院群としての医療産業都市について
4. 医療と介護の連携の充実について
5. 障がい者の地域移行支援について
6. 未来創造都市のシンボルとなる事業について
7. 神戸からの発信、国際貢献について

久元市長

川原田弘子

再質問中の議場の風景です！！

1 医療産業都市の新しいステージについて

質問：神戸医療産業都市の経済効果はH24年度で1251億円、税收効果で45億円となりましたが、更なる産業や雇用への波及効果が重要になります。近年、半導体関連や電子機器のメーカーの多くが、医療の分野に目を向けており、こうした事業者の新たなニーズをとらえて、医療の分野の研究から製造拠点、物流拠点、販売拠点の誘致へと進むインセンティブや規制緩和を考えて、進出のメリットを示していく体制を作るべきと考えますが、ご見解をお伺いします。

久元市長答弁：昨年度進出の企業63社のうち、異分野からの参入は25社であり、本年度も11月末時点で27社中10社と高水準で推移している。レンタルオフィス等への入居に際して、賃料を補助することにより、進出当初の負担軽減を図っているほか、研究施設や工場等の立地に誘導していくため、土地・建物・償却資産に対する固定資産税等優遇措置を設けている。今年度からは大幅に制度を拡充する。また、企業側から国の規制緩和の要望があれば、その要望に応じた規制緩和を国家戦略特区の活用により実現していきたい。今後も、企業のニーズを的確に把握し、支援策を展開していくことにより、異業種参入企業を含めた医療機器開発企業の一層の集積、事業化を早期に実現すべく、全力で取り組んでいきたい。

質問の背景について…

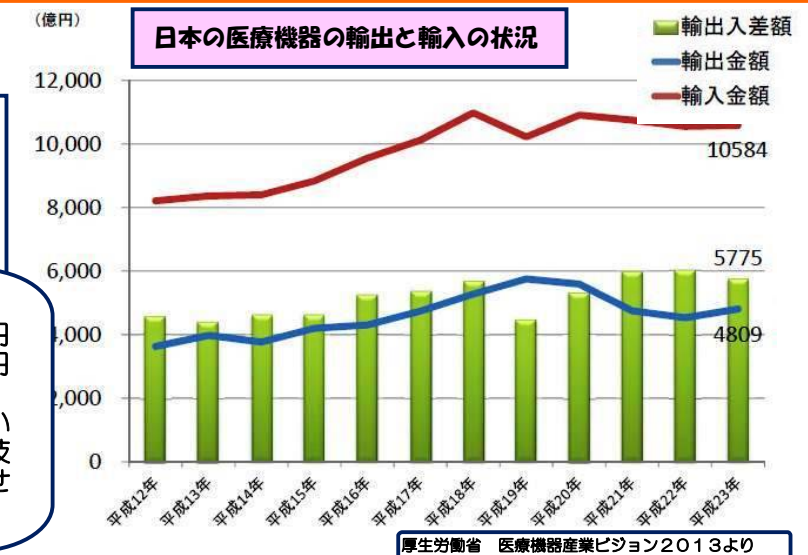
世界の医療マーケット規模（WHOのデータより）

・エネルギー	1000兆円
・医療（サービス含む）	520兆円
・自動車	300兆円
・電機	120兆円
・化学	80兆円



H23年度のデータでは、医療機器の輸出 4809億円、医療機器の輸入 10584億円となっており、差し引くと、-5775億円という貿易赤字となります。日本の技術力からすると、まだまだ伸ばせる余地があります！！

日本の医療機器の輸出と輸入の状況



2 iPS細胞バンク（ストック）について

質問：先日、京都大学のiPS細胞研究所を見学してきました。説明の中に、山中先生が中心となってiPS細胞バンクの創設を進められていることを伺いました。iPS細胞は、ひとつ作成するのに数千万円のコストと長い期間が必要であるため、iPS細胞バンクという考え方が提唱されています。神戸医療産業都市として、山中先生の提唱されるiPS細胞バンクの積極的な支援を検討してはどうか、ご見解をお伺いします。

久元市長答弁：現在、文部科学省の「再生医療実現拠点ネットワークプログラム」において、山中先生が所長を務める京都大学iPS細胞研究所が、全額国費負担により、国内唯一のiPS細胞ストックの構築を進めている。

今回の理研・高橋先生の臨床研究についても、同研究所よりiPS細胞作成に必要な遺伝子の提供を受けたほか、今後も、理化学研究所・CDBと、同研究所の連携推進が計画されている。今後、さらなる連携強化を図ってまいりたいと考えている。

3 専門病院群（メディカルクラスター）としての医療産業都市について

質問：中央市民病院の移転以降、多数の専門病院・専門機関が集積してきました。先日は、10月に伊藤忠メディカルプラザ、11月に神戸国際フロンティアメディカルセンターがあいついで開所しました。しかし、市民の方からは、どんな病院があってどんな治療が受けられるのか、紹介状がいるのかなど、よく質問をいただきます。

今後は、医療を提供する側の視点だけでなく、患者側の視点、市民の目線で、機能を充実させていく必要があると感じます。公立・民間を問わずに、病院群としての案内や治療科の紹介などが必要と思いますが、ご見解をお伺いします。

再生医療用iPS細胞ストックとは？

赤血球の型はABO型の4種類ですが、白血球型抗原のHLAの型にはA座、B座、C座、DR座、DQ座、DP座などの種類があり、「座」の中にそれぞれ数十種類の異なるタイプがあります。両親それぞれから受け継いだ2つのHLA型がAA、BB、CCのような場合を「HLAホモ」といい、細胞移植においては、AAであればABの人やACの人に移植しても拒絶反応が起こりにくいという利点があります。HLAホモドナーの方の血液や皮膚などから、iPS細胞を作製し、保存する計画のことです。予めストックすることにより、品質の良いiPS細胞を国内外の医療機関や研究機関に迅速に提供することができます。

両親から同じHLA型を受け継いだ人



久元市長答弁：各医療機関の代表者が参画するメディカルクラスター連携推進委員会を平成26年7月に設置している。まずはメディカルクラスターを紹介するパンフレットを早急に作成し配布していきたい。また、「地域医療連携交流会」を開催し、メディカルクラスターの各医療機関の病院長からそれぞれの診療内容など特性を紹介し、地域の医療関係者への周知を図ったところである。

〒655-0034 神戸市垂水区仲田3-1-8-202 (垂水支部) 神戸市会議員 川原田弘子事務所
TEL&FAX 078-709-8998
e-mail: happy@hiroko-club.com
URL: http://www.hiroko-club.com

ご相談はこちら



〒650-8570 神戸市中央区加納町6-5-1
編集・発行 民主こうべ政策議員団
TEL 078-322-5844
FAX 078-322-6161